

# 1 令和2年度学校評価の結果と課題

<p>昨年度の 重点目標</p>	<p>「自立や社会参加に向け必要な力を身に付け伸ばす」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 組織的な自立活動・各授業の改善</li> <li>2 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進</li> <li>3 保護者・地域及び関係諸機関との連携</li> <li>4 校務の精選による勤務時間の適正化</li> </ol>		
<p>担 当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>小 学 部</p>	<p>児童が主体的・対話的・体験的に取り組める授業を構成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の特性や各指導計画のつながりを考慮し、目標の共通理解を図った授業を展開する。</li> <li>・安全で安心、清潔で活動しやすい教室環境にし、健康維持やけがの防止に心がける。</li> <li>・地域資源を活用した体験的活動を通して、一人一人の児童に応じた社会性を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で各児童の目標や課題を共有し、朝の学年打ち合わせで確認しながら効果的に実践することができた。</li> <li>・ヒヤリハットを部会で伝え、事故や危険の防止につなげた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策の消毒や換気、検温などの健康観察を通して教室環境を清潔に保てた。</li> <li>・校外学習は行えなかったが、疑似体験学習（宿泊生活学習等）で役割分担などをして社会性の広がりにつなげた。リモートなどを活用した学習形態を探っていききたい。</li> </ul>
<p>中 学 部</p>	<p>生徒の社会性が育つ、学びある授業を構成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々のつながり及び人とのつながりを考えた授業改善</li> <li>・体験的な学習による視野の拡大、社会性の向上</li> <li>・安心・健康に過ごすために、関係諸機関との連携及び職員間の情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に、指導者間で情報交換を行い、生徒への配慮事項、ねらい等を確認しながら指導の充実を図った。また、積極的にICT機器を活用して授業改善に努めた。</li> <li>・校外学習等の行事が中止となり体験的な活動に限りがあったが、日常の授業において、教材・教具、支援具を作製したり、ICT機器を活用したりして、生徒一人一人に実態に配慮して、学習意欲を高めることができた。</li> <li>・感染防止のため、生徒の登校人数に応じて、授業展開等を工夫しながら授業を行った。生徒情報、ヒヤリハット等について、学年会、部会で情報共有し、健康・安全に配慮した指導の改善、生徒への支援方法等について情報共有することができた。</li> <li>・関係機関等と連携して、オンラインの活用等、生徒一人一人の実態及び感染症対策に配慮した指導の充実を図っていききたい。</li> </ul>
<p>高 等 部</p>	<p>卒業後を見据え、地域社会で自己の力を発揮できるための授業を構成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な障害特性に配慮したわかりやすい授業を展開し、生徒一人一人の良さを伸ばす。</li> <li>・自分とその周りの状況を知り、自己を大切にし、人とのつながりを楽しむ姿勢を育む。</li> <li>・個々の進路実現に向けた課題を教員間で共有し、日常生活指導や授業改善につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器や支援機器を活用して生徒が主体的に活動したり、伝えたりできるような授業を目指した。生徒の障害特性に合わせて機器を活用し、学習内容の理解を深めることができた。</li> <li>・ケース会で、生徒の学校生活上の留意事項について検討し、共通理解することができた。進路週間報告会で各班の取組や成果、課題を生徒が発表することができた。事後は個々の記録を職員間で回覧し、取組の様子や課題が明確となった進路課題を高等部全体で共通理解し、日常生活や教科の指導に生かした。</li> <li>・生徒情報やヒヤリハット、新型コロナウイルス感染症対策について、部会や学年会で共有し、事故防止や指導の充実につなげた。生徒のニーズや課題の確認、授業に向けた話し合い、授業準備などを充実させ、生徒に向き合う時間を大切にしていきたい。</li> </ul>
<p>訪問教育</p>	<p>人との関わりを大切に授業を構成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問教育の活動を通して、児童生徒同士や取り巻く人と関わる機会をもつ。</li> <li>・授業の中で関わる人とのつながりを意識した内容を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は双方向通信を使った「訪問グループトーク」や母学級交流を充実させることができた。児童生徒が「伝えたい」という気持ちをもてるよう、グループによる余暇活動を行い、これらの紹介を話題の中心にして、交流を展開した。自分の行動が、友達に評価される経験を積み、訪問教育では難しかった集団学習の雰囲気味わうことができたと思われる。</li> <li>・地域・福祉の関係者との連携が可能になれば、支援計画の目標を共有し、達成につながる契機になればよいと考える。</li> </ul>
<p>総 務</p>	<p>総務部の業務内容について見直しを進め、担当職員の多忙化の解消に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見直した介護等体験の日程を基に改善点を検討し、検証のまとめを行う。</li> <li>・学校だよりの掲載内容や送付先等の検証を継続し、読みやすい紙面づくりにつなげる。</li> <li>・介護等体験及び学校だよりの業務内容について見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護等体験は児童生徒と非接触の内容であったが、学生の実習日誌では概ね好評だった。検証のまとめの年度であったが、来年度以降も柔軟に計画していきたい。</li> <li>・学校だよりの掲載内容を一部変更したため、レイアウトの見直しを図り掲載した。保護者アンケートからも高評価を得られた。</li> <li>・各業務の報告により全体で情報の共有及び意見交換を行うことができた。情報機器のさらなる活用を進め、業務の精選を図りたい。</li> </ul>
<p>教 務</p>	<p>新学習指導要領に応じた教育課程の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間や教育課程について検討し、全職員に説明して共通理解を図る。</li> <li>・個別の指導計画の書式を改善し、全職員に説明して共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間、日程表については、他校の情報も得ながら来年度から中学部・高等部では50分授業とすることとした。それに伴い日程表についても見直しをした。来年度実施していく中で問題等があれば、見直しをしていく。</li> <li>・個別の指導計画の書式については、検討を重ねた結果変更はしなかった。ただし、入力の方法を3年分を一つの書式にまとめて、記入時に過去の内容を参考できるようにした。</li> </ul>

<p>研 修</p>	<p>研究・研修の充実を図り、特別支援教育の専門性や授業における指導力の向上を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力の向上につながる知識や技能、学習指導要領改訂のポイント、教育課題等を意識した研究や研修の推進に努める。</li> <li>・特別支援教育の専門的知識や技能、受講者のニーズを多角的に捉え、校内現職研修を計画・実施すると共に、各研修の意義やねらいを明確にし、受講者に積極的に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校研究に対する基本的な考え方や今年度の「研究の視点」、各班の状況報告などを定期的に発信することで、研究に対する主体的な姿勢や取組を引き出し、各班と研究推進委員会とのつながりを保ちながら進めることができた。学習指導要領と授業づくりとの関係を、広く伝えることができた。</li> <li>・研修においては、自分で研修を選択し参加する機会を提供するために、動画視聴型の研修を計画・実施した。動画の視聴率はまだ低いため、職員一人一人の意識改革につなげられるよう、続けて発信していく必要がある。</li> <li>・研修の意義やねらいについて研修部内では繰り返し確認し、共通理解を図ることができた。全教職員に対して、さらに積極的に伝えていきたい。</li> </ul>
<p>図 書</p>	<p>児童生徒が本を身近に感じられる環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節やテーマに沿った展示をし、案内を工夫することで、児童生徒が図書室に興味・関心をもつことができるようにする。</li> <li>・児童生徒の読書意欲が高められるような図書の配架の工夫を行い、読書指導に活用しやすくする。</li> <li>・読み聞かせ活動の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示板や壁面、図書室内など季節や行事に合わせた壁面構成をすることができた。高等部図書委員会のお薦め本の紹介などの活動も掲示に生かすことができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用・換気・室内や本の消毒・密を避けるなど、安全に留意した環境を心掛けて開室した。仕組みを整え、マスク着用が難しい児童生徒にも本を借りる機会を保障した。小牧図書館からのテーマを設けた借入れも、興味・関心を引き付け、読書指導の良い機会となっている。</li> <li>・読み聞かせボランティアに複数の職員が名乗りを上げ、また、読み聞かせの様子を撮影した動画を訪問教育先で見せるなど、新しい取組も行った。本に関わる多くの資源を活用し、児童生徒にとって、身近に興味・関心のもてる取組を継続し、さらに工夫していきたい。</li> </ul>
<p>教育情報</p>	<p>職員の情報活用能力の向上を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小牧特別支援学校情報セキュリティ実施手順や各種規約・指針などの周知徹底を行う。</li> <li>・職員が各自である程度の機器トラブルに対応できるようにする。</li> <li>・校内でICT機器を活用できるように研修や情報共有を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議やグループウェア等、さまざまな機会に実施手順や規約、指針などについて話をする機会を設け、職員に働きかけることができた。</li> <li>・操作手順を集めることで、各職員が主体的に解決できるように取り組んできた。今後さらに事例を集め周知するとともに、必要に応じて紙資料、動画等うまく活用していきたい。</li> <li>・タブレットパソコンの活用方法、タブレット端末（iPad）の活用方法について研修会を開いたり、動画による研修資料を作成したりすることができた。職員の授業でのタブレット導入数は増えているので、ニーズに応じて各関係委員や分掌と連携しながら今後も進めていきたい。</li> </ul>
<p>生徒指導</p>	<p>安全や人権に対する意識を高め、危機管理体制の確立を図り、安心して通える学校づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全マニュアルや災害用備蓄品などの安全対策の見直しを行い、課題解決や改善を図る。</li> <li>・実態に応じた訓練や研修の方法を検証しながら工夫し、安全に対する意識を高めると同時に、職員の連携体制を確認する。</li> <li>・人権教育を推進し、児童生徒の状況把握と職員間の情報共有を推進し、学校全体で組織的に生徒指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災や防犯の研修動画を制作し、グループウェア内に必要な時に常に視聴できる体制を整えることができた。</li> <li>・職員研修では、研修動画と実践を交えることで緊急時における初動体制の理解と防災・防犯の意識向上を図ることができた。</li> <li>・人権研修では、職員間でのグループディスカッションを行うことで、人権の観点からの指導上の配慮事項などを考えることができた。</li> <li>・生活アンケートから児童生徒の状況の把握や職員間の共通理解を図ることができた。</li> </ul>
<p>進路指導</p>	<p>キャリア教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員に向けて、進路指導に関する夏季研修を行う。</li> <li>・進路・生活情報交換会では、保護者に向けて事業所の方による講話を実施し、入所に向けての準備や児童・生徒の卒業後の生活に向けてイメージ化を図る。</li> <li>・児童生徒が進路への見通しがもてるように、進路先となる事業所及び上級学部の見学、講話、体験等を提案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度については、新型コロナウイルスの影響により、事業所見学の研修ができなかったため、新規の事業所の様子や代表の方の話を動画におさめて、職員研修として配信することができた。来年度についても進路の研修についてどのように進めていくのかは、今後も検討していきたいと思う。</li> <li>・来年度の進路・生活情報交換会の実施方法や内容などを分掌部会を通して職員間で意見交換をし、共通理解を図ることができた。</li> </ul>
<p>保 健</p>	<p>職員間の連携をもとに、安全な教育環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と看護師の情報交換を密にして医療的ケアが必要な児童生徒の体調把握に努める。</li> <li>また、日常時、緊急時の体制について共通の理解をもって対応できるようにする。</li> <li>・ヒヤリハット事例の集約に努め、事例を全校研修や職員会議等で紹介して、危機管理意識の高揚、持続化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分散登校時に看護師の動きに余裕がもてたため、教員、看護師、保護者がじっくりと情報交換することができ、例年よりスムーズなスタートを切ることができた。また、年度途中から4名の新規看護師がケアを始めたが、教員と連携し事故なく安全な医療的ケアが実施できている。必要に応じケース会を実施し、教員と看護師が共通認識をもてるように適宜、情報の更新を図ることができた。</li> <li>・ヒヤリハットの報告件数は、11月現在66件（昨年度の同時期は82件）である。今年度は臨時休校や分散登校の期間があり、登校日数が少ないため件数は減っている。しかし、各部会でヒヤリハットをしっかりと確認できるように報告方法を変更したため、幅広く報告が上がるようになってきた。11月現在、</li> </ul>

			病院受診が1件あるが、例年より事故件数は減らすことができている。
教育支援	校内支援及び地域支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援の在り方や体制について、実践を通して模索していく。</li> <li>・職員のスキルアップや意見収集のために「支援部からの豆知識」を活用していく。</li> <li>・地域支援での関わった学校を継続して支援できるようにあゆみ相談を活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制の周知に取り組んだが、実践にはつながらなかった。校内支援の考え方や進め方を見直し、分掌内で校内支援について研修を継続しつつ、必要に応じて職員の意識改革を進めていきたい。</li> <li>・「豆知識」では、保護者対応、子どもの行動や支援の方法、事例紹介などの内容を取り上げた。より児童生徒への支援に生かしやすい内容を取り上げるため、職員の意見を反映できる方法を取り入れていく。</li> <li>・地域支援で関わった学校には、継続した支援の必要性を伝えるように努力した。支援を継続できている学校もあり、今後も普通学校と特別支援学校が協力できる関係づくりを進めていけるとよい。</li> </ul>
自立活動	指導者間での共通理解をもとに、より安全で効果的な自立活動の指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立活動の指導計画」や映像記録を、年度初めの引継ぎや、年3回実施するケース会で活用するよう周知する。</li> <li>・「自立活動の指導計画」についての意見を集約し、新様式を検討する。</li> <li>・長期休業前に、担任を通じて保護者に安全点検の実施を通知し、毎回の点検時期に点検表の回収と配布を行うことで、実施への意識を高める。</li> <li>・活動室やプール室の器具や教材教具の正しい使い方を、研修や掲示で職員に伝達する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回のケース会では、自立活動の指導計画を参考資料として指導の引継ぎや実態把握、指導の手だての検討に役立てることができた。特に、今年度は6月からの指導の開始であったが自立活動の指導においてスムーズに取り組むことができた。</li> <li>・自立活動の指導計画の新様式について、個別の教育支援計画と連携できるように、教務部と検討を重ねて作成することができた。</li> <li>・安全点検については、2年目の実施となり周知徹底されて、各担任の安全点検への意識も高まり順調に取り組むことができた。</li> <li>・活動室や器具、備品のコロナ対策（使用後の消毒）が各自で徹底され、使用回数や貸出数が増えたことで、活動室や器具、備品の使用の充実や活用につながった。コロナ対策や改修工事の関係で使われなかったスヌーズレンルームの物品について、貸出物品として生かすことができなかった。</li> </ul>
その他	勤務時間の適正化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の精選、行事等の見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会終了後に教育課程委員会や学校評価委員会を開催するなど会議の効率化、時間の短縮化を図ることができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のため、校外学習、遠足等多くの行事を実施することができなかった。新しい生活様式に対応した行事の在り方を検討していく必要がある。</li> </ul>
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 組織的な自立活動・各授業の改善</li> <li>2 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進</li> <li>3 保護者・地域及び関係諸機関との連携</li> <li>4 校務の精選による勤務時間の適正化</li> </ol>	